

講座スケジュール案

	日程 13:30～16:00	課目・内容
第1回	2025年 4月12日(土)	オリエンテーション・自己紹介朗読の基本の「キ」 朗読をてがかりに地域の人々をつなぎ、みんなで子どもを育てる仕組みをつくるためには、どんなことが大切か、この講座の目指すこととお話します。一年一緒に学ぶ仲間全員、自己紹介。そして、朗読とは何か、基本の「キ」をお伝えします。
第2回	5月17日(土)	絵本で学ぶ朗読の基本「あたし、うそついちゃった」「うしかたとやまんば」 誰にでも身に覚えのある幼い子の嘘。朗読の基本と同時に、悩む子に向きあう大人の態度も学べます。「うしかたとやまんば」は、山口県に伝わる民話。方言の語り口も楽しみましょう。この回から5つの班に分かれ、各班の「リーダー」を毎回交替で、全員に務めていただきます。リーダーシップを身につけるためのトレーニングです。
第3回	6月7日(土)	絵本で学ぶ朗読の基本「めっきらもつきらどおんどん」 オノマトペが楽しい、子どもたちに人気の絵本。どれだけ自分を解放できるか、おもいっきり遊んでみましょう。登場するお化けたちも個性的、それぞれの個性を演じ分ける工夫がいります。その中で、過剰にならない自然な表現とはどういうものか探ります。
第4回	7月5日(土)	深く感じつつ、抑制した表現を「くまとやまねこ」 最愛の小鳥を喪って深い悲しみの中にいるくまが主人公。くまの悲しみに共感できなければ読めない絵本です。朗読で一番大切なのは「感じる心」です。しかし、その感情におぼれてしまうと、聞き手には伝わりません。「伝える」という意識を保つことで、客観的になることができます。
第5回	8月2日(土)	日本語の調べを学ぶ「枕草子」「平家物語」「君死にたまふことなかれ」「十三夜」 古典を朗読するには、現代文とはまるで違う方法が求められます。古典や文語体の文章を、日本人の身体にしみ込んだ5・7のリズム・調べを大切に、味わい深く読む技術を学びます。
第6回	9月6日(土)	全体の組み立てを踏まえて朗読する「よだかの星」(構成表作成) 宮沢賢治の「よだかの星」は、よく知られた名作です。しかし賢治の描くスケールの大きな世界を立体的に表現するには、全体の組み立てをしっかりと読み取ることが大切です。予め構成表を作っておくと朗読の助けになります。構成表の作り方なども含め、複雑な構成の作品を朗読するための方法をお伝えします。
第7回	10月4日(土)	話し言葉のイントネーションで読む「よだかの星」(耳を鍛える) 「よだかの星」は、百人百様の解釈のできる深い内容のお話ですが、子どもにも分かる易しい言葉で書かれています。「話すように読む」朗読の基本を身につけるのにふさわしいテキストです。他の人の朗読や自分の録音を聞いて、イントネーションの違いを聞き分けられる「耳」を鍛えましょう。
第8回	11月8日(土)	文体にふさわしい声を探る「山椒魚」 井伏鱒二の「山椒魚」は、昭和初めの男言葉で書かれた独特の文体です。声を作るのではなく、自分の中にある、どの声がこの世界を表現するのにふさわしいかを探りながら、緩急・間・会話表現などの朗読技術を身につけていきます。
第9回	12月6日(土)	意味内容と呼吸を合わせる「山椒魚」 井伏鱒二の文体は、時に長い一文が混じり、読むには難しい文章です。一つの意味の固まりは、ひとつの息で読まなければ意味が伝わりません。意味内容と呼吸を合わせることがいかに大切な、この文章から学ぶことができます。
第10回	2026年 1月17日(土)	朗読指導者としての基本を確認・発表会に向けて個別指導 これまでに学んで来たことを再確認。話すように読むイントネーション、聞き分ける耳、指導者としてのリーダーシップなど、今後の自分の課題を確認しましょう。後半は、3月の朗読発表会に向けて、ご自分で選んだ作品の朗読を個別指導します。
第11回	2月7日(土)	朗読発表会に備えて 3月の最終回では、一年間に学んで来た朗読の基本、さまざまな技術などを駆使して、全員に、一人3分間の朗読を発表していただきます。それに備えて、是非読みたいという作品を予め選んで、下読みしておいて下さい。個別指導いたします。
第12回	3月7日(土)	朗読発表会総合評価と修了証の授与 今後の地域での活動に備えて、実際にお客様をお招きしての朗読発表を行います。その講評の後、「朗読で子どもの言葉を育てる志」を共有する朗読者として、みなさんに修了証書をお渡しします。

予備日 2025年10月25日(土)、2026年1月31日(土)

荒天等の影響により、上記の日程で開催できなかった場合の振替日として、次の日程で調整させていただく可能性がございます。恐れ入りますが、ご承知おきいただければ幸いです。